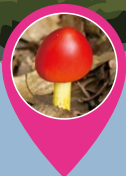
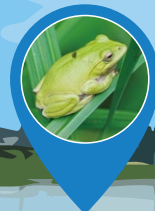
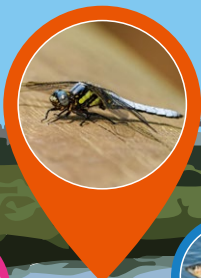
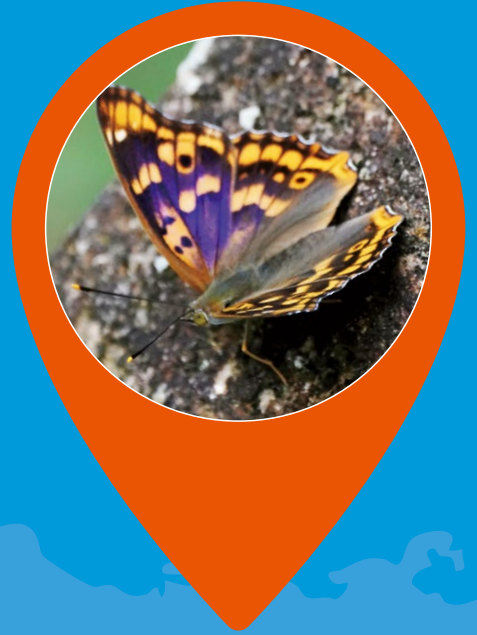
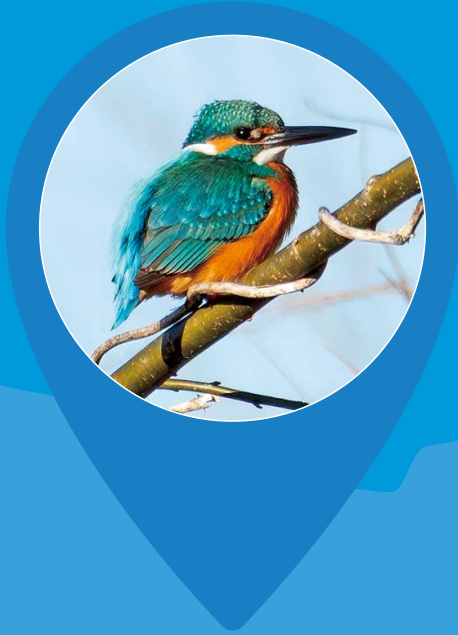


多摩市

生きものの調査

レポート

2020-2025



約100,000件・2,000種の生きものの観察記録

※2025年
12月31日現在

Index 目次

多摩市生きもの調査隊とは？ 3

2020-2025 調査レポート 4-5

どこで何が見られる？ 生きものロケーションガイド 6-7

生物多様性ホットスポット① 雑木林 8

生物多様性ホットスポット② 草地 9

生物多様性ホットスポット③ 河川 10

生物多様性ホットスポット④ 水田・池・湿地 11

多摩市の重要種 — 守りたい、この街の「宝もの」 12-13

多摩市の外来種 — 忍び寄る「侵略者」たち 14-15

気候変動で変わる生きもの — 多摩市で起きている「温暖化」 16-17

多摩市生きもの調査隊から、ネイチャーポジティブへ 18-19

あなたも調査隊員になりませんか？ 20



表紙の生きもの

- （上から）①カワセミ・②シュレーゲルアオガエル・③アユ
- （上から）①コムラサキ・②シオヤトンボ・③ナガコガネグモ
- （上から）①ヤマザクラ・②カントウタンポポ・③カワラナデシコ
- （上から）①キツネノハナガサ・②サンコタケ・③タマゴタケ種群

多摩市生きもの調査隊とは？

— 市民が記録する、多摩市の自然 —

「多摩市生きもの調査隊」は、市民がスマートフォンで身近な生きものを記録し、多摩市の自然を「見える化」する取組です。

特別な知識や道具は必要ありません。

日常の中で見つけた生きものが、まちの自然を知る手がかりになります。

どんな人が参加してるの？

小学生からシニア、初心者から専門家まで、100名以上が参加しています。散歩や通学・通勤の途中など、日常の中で「できるときに、できる範囲で」観察・記録するのが調査隊のスタイルです。

どんな活動をしているの？

見つけた生きものをスマホで撮影して「どこに、何がいたか」を記録。鳥、魚、昆虫、植物、キノコなど多摩市にいるすべての生きものが対象です。集まった記録は、多摩市の自然環境の把握や保全に活用します。記録にはスマホアプリ「iNaturalist(アイナチュラリスト)」を活用しています。

iNaturalist とは？

世界中で使われている無料の生きもの観察アプリです。スマートフォンで撮影して投稿し、その生きもの名前(種名)や見つけた場所、日時などを記録します。AIや他のユーザーが名前を教えてくれるので、生きものに詳しくなくても気軽に参加が可能です。また、みんなの観察が共通の地図に記録されるので、特定の地域を多くの人で調査することができます。



参加したみんなから
集まった観察記録
**189人から
100,000件以上**
が集まりました！

観察記録数
100,363件

観察者数
189人

iNaturalistにアップされた
うちの約7割の生きものの種
名が世界中から2,377人によ
って同定*されました。
※生物の種名を特定し、明ら
かにすること

約**70,000件**
約**2,000種**が
多摩市の公式記録に

研究用
観察記録数
70,182件

観察種数
2,065種

種名が確定し、位置情報が確認された記録は
「研究に使える記録」として多摩市公式記録と
なると同時に、国際的なデータベースにも保存
されました。

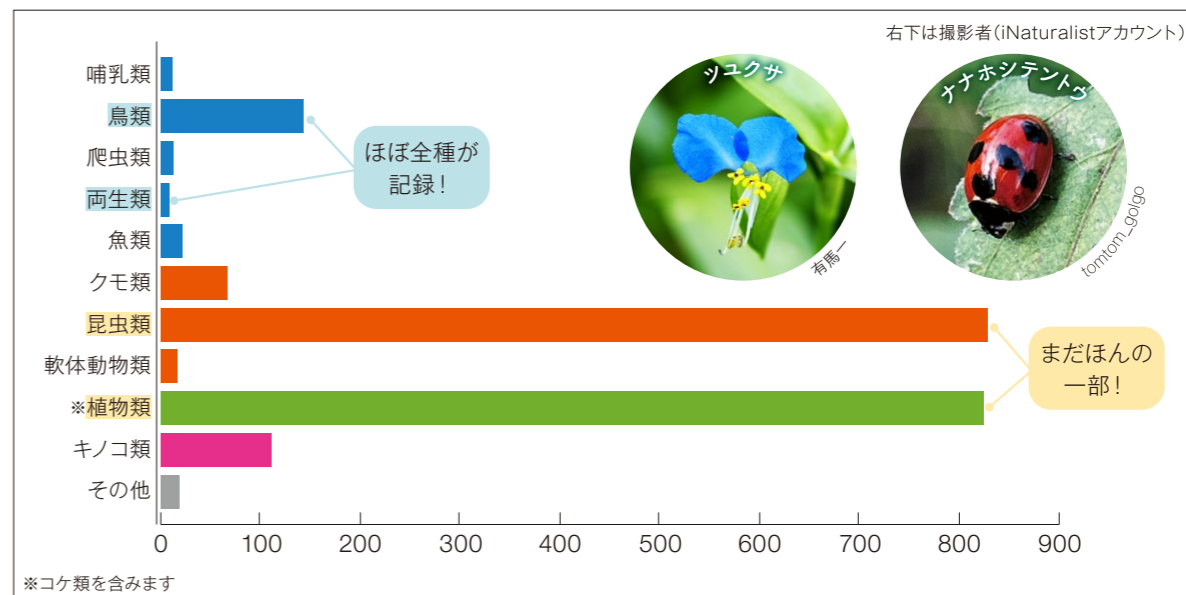
子どもから大人まで、多くの市民が参加し、
多摩市の生きものが幅広く記録されてきました。

身近な観察が、まちの自然を知る
大きな力になっています。

※多摩市生きもの調査隊が正式に発足したのは2024年度ですが、2020年からのプレ調査の結果を含んでいます。

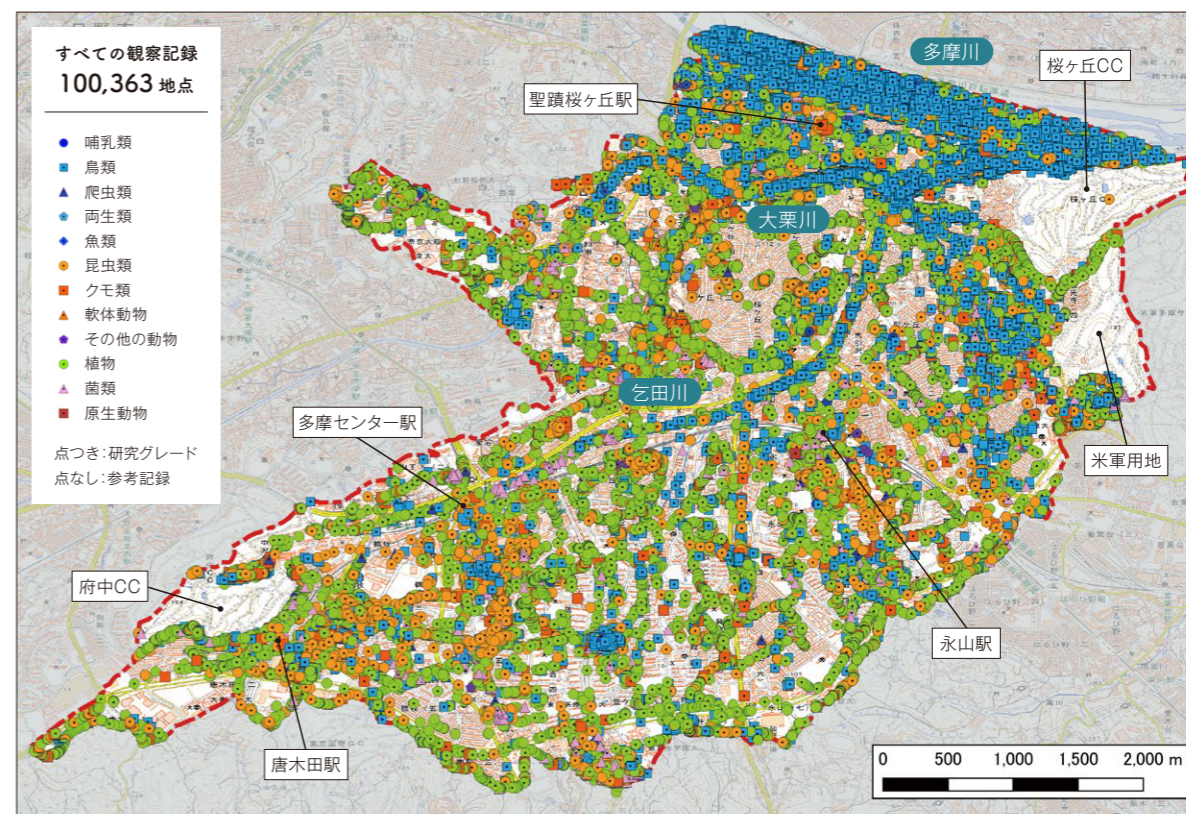
種類別記録数

隊員の調査で、昆虫や植物がたくさん記録されましたが、もともと種数が非常に多く、実は「まだほんの一部」。これからも新しい発見が期待される一方で、鳥や両生類はほぼ全種が記録された段階に入っています。



観察地点マップ

観察地点は、市内のほぼ全域にバランスよく広がっています。地図を見ながら空白地を探して調査した結果です。多摩川や大栗川沿いに青が多いのは野鳥が多く観察しやすいため、ゴルフ場や米軍用地など入れない場所は空白となっています。



どこで何が見られる？

生きものロケーションガイド

環境ごとに見られる代表的な生きものを紹介します。
街中の商店街や住宅地でも、驚くほど多くの生きものが暮らしています。



観察会の様子



雑木林



オオタカ

m_sato



キクイタダキ

m_sato



ヤマアカガエル

tsugumi



アオダイショウ

arigumo



カブトムシ

j_kermit



ミズイロオナガシジミ

tbc_watanabe



タマムシ

kada46826



オオスズメバチ

有馬一



ムラサキシジミ

mami_t_t



クヌギ

yumibee



ヤマユリ

nakayama-7mt



タチツボスミレ

mami_t_t



ヒイロタケ

pirak



カエンタケ

mami_t_t



草地



モズ

stimes



ツグミ

m_sato



オンバッタ

tbc_watanabe



ショウリョウバッタモドキ

river3mushi



ウスバキトンボ

m_sato



ミヤコグサ

m_sato



センニンソウ

mami_t_t



ヤブカンゾウ

yumibee be



カントウタンポポ

tbc_watanabe



河川



ホンドキツネ

m_sato



コサギ

m_sato



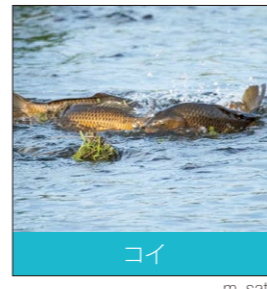
ホシハジロ

m_sato



セッカ

m_sato



コイ

m_sato



アユ

tamacity_saito



コムラサキ

tbc_watanabe



カワラサイコ

tbc_watanabe



カワラナデシコ

mami_t_t



水田・池・湿地



マガモ

mami_t_t



カイツブリ

m_sato



トウキョウダルマガエル

j_kermit



ヒガシニホンアマガエル

tbc_watanabe



オオヤマトンボ

m_sato



キイトンボ

satoshiy



ナガコガネグモ

tbc_watanabe



カワニナ

j_kermit



ホザキノフサモ

tbc_watanabe



街なか



ホンドタヌキ

m_sato



ツバメ

mami_t_t



ハシトガラス

tbc_watanabe



チョウゲンボウ

raptorfreak



アズマヒキガエル

tama_king_fisher



ヒガシニホントカゲ

tsumugi



ヤマトシジミ

tama_king_fisher



ホトケノザ

mami_t_t



スミレ

eiei



雑木林

生物多様性ホットスポット 1 指標種が語る、里山の現在地

多摩市では、まとまった広い雑木林は桜ヶ丘公園に限られますが、市内各所に今も雑木林が点在しています。近年はナラ枯れの影響により森の姿が大きく変わり、生態系への影響も広がりました。こうした中で、グリーンボランティアによる間伐や下草刈りが、ヤマユリやアオゲラが生き続けられる環境を支えています。

光が届く林縁の象徴
ヤマユリ



半日陰～明るい林床を好みます。下草刈りや間伐によって維持される環境でよく育ち、放置され暗くなると姿を消してしまいます。

大径木が残る森の証
アオゲラ



巣穴を掘れる太い木が必要です。昆虫が多い健全な雑木林に生息し、森の構造が保たれていることを示す指標です。

落ち葉と朽ち木が育つ森のしるし
カブトムシ



幼虫は腐葉土や朽ち木の中で育ちます。落ち葉がたまり、土壌が豊かに保たれた雑木林でなければ世代をつなぐことができません。



原峰公園



なな山緑地・林床で咲くニオイタチツボスミレ



なな山緑地



草地

生物多様性ホットスポット 2 管理された草原が育む命

草地は多様な生きものを育む重要な環境です。多摩市では、多摩川の河川敷やニュータウン内に多く見られます。こうした草地でないと生きられない生きものも多いことから、近年、適切に草刈りされた草地の価値が見直されつつあります。多摩ニュータウンの草地をどうやって管理していくかは生きものにとってもとても重要です。

刈られる草地に生きる
ショウリョウバッタモドキ



草丈がそろった草地を好む習性があります。放置されやぶになると姿を消します。定期的な草刈りが生息条件です。

半自然草地の野生のマメ
ヤブツルアズキ



明るい草地に生息し、草刈りによって競合する植物が抑えられるため、人の管理と共存してきた植物です。アズキの原種とされています。

駅前の道路などでも見られるかも
ウマノスズクサ



公園の草地、法面、空き地など、人の手で維持されてきた草地に生えます。ジャコウアゲハの幼虫の食草として、その命を支えている存在でもあります。



関戸公園のカントウタンポポ群落



桜ヶ丘公園草地



一ノ宮公園の堤防草地のクサボケ群落



生物多様性ホットスポット 3

流れがつくる、多様な水辺環境

多摩市には多摩川や大栗川など、野鳥をはじめ多くの生きものが見られる河川があります。一方、乞田川はコンクリート護岸が多く、他の川と比べ生きもの種類や数は限られています。河川は水辺として重要なだけでなく、増水をくり返すことで環境を攪乱し、多様な環境を生み出します。この「変化のある環境」が、河川の生物多様性を支えています。

空飛ぶ宝石
カワセミ



水中の魚を捕らえる美しい鳥。水質が比較的良く、小魚がいる川や池で一年中見られます。意外にも、大栗川などでは身近で見つけやすい鳥です。どこでも大人気です。

海と行き来する回遊魚
アユ



春先に海から遡上してきます。ダムや堰などにより邪魔されず海から上ってこれる川であれば生息することができます。多摩川だけでなく大栗川でも見られます。

増水により攪乱される環境を好む
カワラナデシコ



その名の通り増水で攪乱される河原を好みます。多摩川で夏に美しい花を咲かせます。



多摩川



大栗川



大栗川での水辺の楽校



生物多様性ホットスポット 4

失われつつある、水のたまり場

水辺は、生きものに欠かせない環境です。多摩市ではニュータウン開発などにより排水路が整備され、湧水の枯渇など乾燥化が進み水辺は減少する一方です。その中で、公園に残された池や、わずかに残る水田、谷戸の湿地は、水に依存する生きものにとって非常に重要な生息地となっています。

水田とともに数を減らしている絶滅危惧種
トウキョウダルマガエル



水田や湿地で繁殖するカエル。水辺環境の減少とともに数を減らしています。多摩市では一ノ宮水田にわずかに残っています。

湧水に生き残る
ホトケドジョウ



水のある谷戸に生息する魚。安定した水量と水質の良さを示す指標です。多摩市では数少ない湧水のある谷戸に生き残っているだけです。

黒地に黄色が映える美しいトンボ
サラサヤンマ



湿地や池でまれに見られる大型のトンボ。こんなところという泥が湿った程度の湿地にヤゴが生息しています。市内ではなかなか見ることのできない種類です。



一ノ宮水田



桜ヶ丘公園の水田



豊ヶ丘南公園の池

多摩市の重要種

守りたい、この街の「宝もの」

絶滅危惧種が教えてくれる、豊かな自然のサイン。
 多摩市には、東京都や日本中で数が減っている貴重な生きものが今も暮らしています。
 彼らがこの街を選んで住んでいるということは、多摩の自然がそれだけ豊かである証拠です。
 調査隊が見つけた「奇跡の瞬間」をのぞいてみよう。

奇跡の来訪者

コウノトリ

CR (環境省)

2024年11月、千葉県野田市で生まれたコウノトリの「たける」が、関戸公園にやってきました。野球場のバックネットの上で一晩を過ごしたこのニュースは、多摩川周辺が渡り鳥にとって大切な休息の場であることを証明しました。



m_sato



街を見守る王者

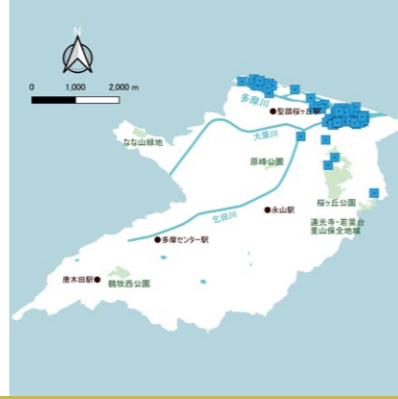
オオタカ

VU

かつては「幻のタカ」と呼ばれましたが、今は多摩丘陵の森を拠点に、普通に街の上空で見られるようになりました。獲物を狙う凛々しい姿が数多く記録されています。



raptorfreak



多摩地方繁殖初記録

ヒクイナ

CR

河川や湿地に生息する水鳥です。都内では葛西臨海公園だけでしか繁殖記録がありませんでしたが、2025年に子育てしているところが記録されました。



m_sato



見つけにくい森の住人

タカチホヘビ

VU

小型で地中性のため人目につきにくい種類ですが、目ざとい隊員が発見しました。多摩市はヘビ類が著しく減少していることが調査でわかりました。



arigumo



絆が生んだ復活

ツマグロキチョウ カワラケツメイ

CR

VU

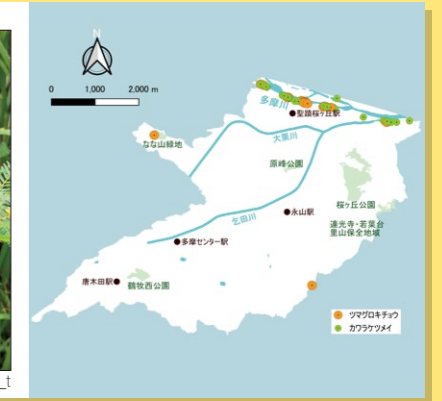
多摩市で一度姿を消したツマグロキチョウが、近年再び確認されました。復活のカギは、幼虫が食べる植物「カワラケツメイ」が増えてきたことです。生きものは単独では生きられず、食物連鎖が大切です。



m_sato



mami_t_t



谷戸田の黄色い妖精

キイトンボ

EN

鮮やかな黄色が美しい小さなイトトンボ。かつては普通に見られたトンボですが著しく減少しています。市内では里山にわずかに残された谷戸田に生き残っていました。



tbc_watanabe



春の雑木林の主役

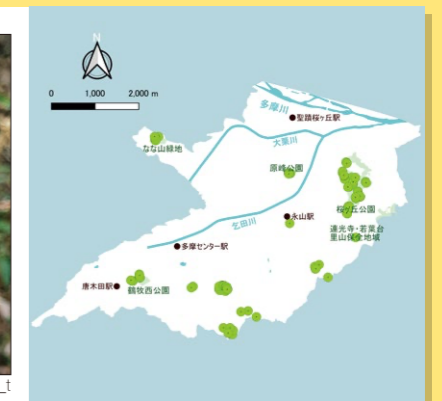
キンラン

VU

鮮やかな黄色い花を春に咲かせるキンランは、多摩丘陵の雑木林を代表する植物です。雑木林のキノコと共生しているため、庭に持ち帰っても育ちません。



mami_t_t



絶滅の危機の程度を示すレッドリスト

レッドリストは、生きものが今どれくらい絶滅の心配があるかを示したリストです。IUCN(国際自然保護連合)や環境省によりランク分けされています。ここでは東京都(南多摩)のランクを示しています。

絶滅リスク
 (上に行くほど危険)

絶滅危惧種

EX	地球からの絶滅	絶滅
EW	野生絶滅	野生絶滅
CR	極めて絶滅に近い	絶滅危惧 I A 類
EN	絶滅寸前	絶滅危惧 I B 類
VU	存続が危ぶまれる	絶滅危惧 II 類

多摩市の 外来種

忍び寄る「侵略者」たち

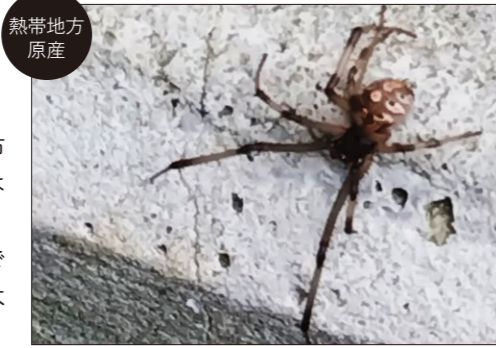
多摩市には今、もともといなかったはずの「外来種」が急増しています。中には、在来の生きものを追い詰めたり、私たちの暮らしに危険を及ぼしたりする「特定外来生物」も含まれています。外来種を減らし、在来の生きものを守らなければなりません。

市民が発見！

ハイロゴケグモ

特定外来生物

2024年10月、調査隊員の報告によって多摩市内で初記録されました。これを受け、市役所はすぐに注意喚起の情報を公開しました。側溝のふたの裏やベンチの下などにひそんでいることがあり、毒があるので素手で触ると大変危険です。



tama_king_fisher

熱帯地方
原産



かわいい顔の、深刻な問題

アライグマ

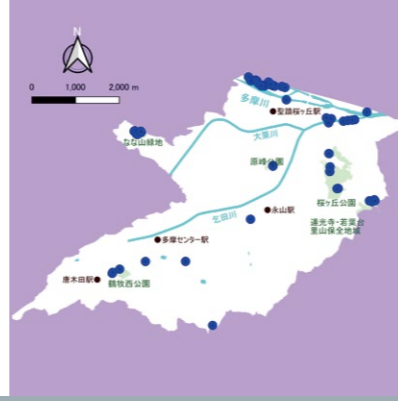
特定外来生物

多摩市では親しみのあるキャラクターでもありますが、生態系に大きな影響を与える外来種です。野外で激増中で、産卵のために水辺へ集まったヒキガエルを捕食する様子が撮影されました。



m_sato

北米
原産



消えた日本の「音風景」

ガビチョウ

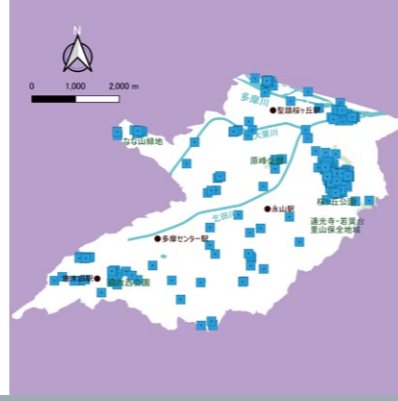
特定外来生物

目の周りの白い模様が特徴の鳥です。1990年代後半から分布が広がり、今や市内ではどこでも一年中けたたましい鳴き声が聞こえるほど蔓延しています。日本本来の音風景が一変するだけでなく、在来種の鳥たちを圧迫する恐れがあります。



boo1788

東南アジア
原産



きれいな花には裏がある

オオキンケイギク

特定外来生物

5月から7月にかけて道端などでよく見かける鮮やかな黄色の花ですが、繁殖力が極めて強く、日本の在来植物を全滅させてしまう恐れがあります。キレイに見えても、別の場所に植え替えてはいけません



imori_mih

北米
原産



命を飲み込むハサミ

アメリカザリガニ

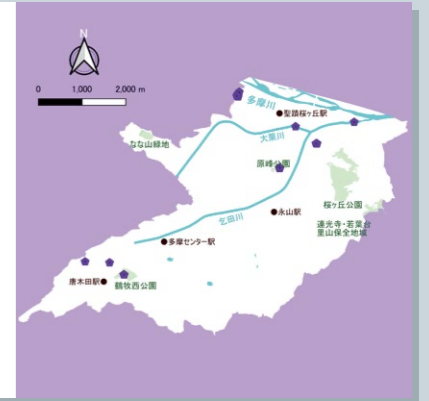
条件付特定外来生物

魚や水生昆虫、水草まで何でも食べてしまうため、水辺の生態系をボロボロにしています。調査データからも、アメリカザリガニがいない場所ほど、貴重な在来種が多く残っていることがわかっています。



j_kermit

北米
原産



長生きする困った隣人

アカミミガメ

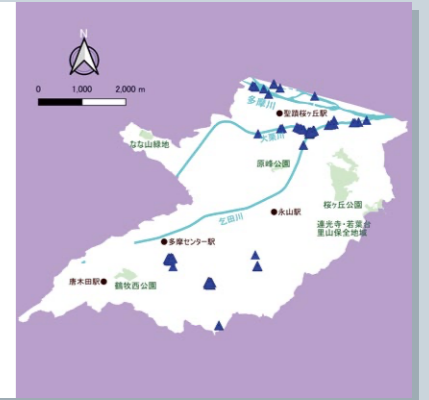
条件付特定外来生物

小さいうちはミドリガメと呼ばれ、寿命が長く、成長すると非常に大きくなります。多摩市の河川や公園の池でも多く記録されており、在来のカメの生息を圧迫しています。最後まで飼いきれずに逃がしてしまうことが、多摩の自然を壊す原因になっています。



mami_t

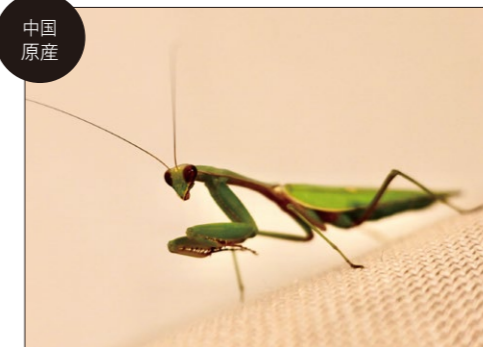
北米
原産



気づかぬ間に、在来種と入れ替わる

ムネアカハラビロカマキリ

近年、持ち込まれた外来種です。在来のハラビロカマキリと交尾すると、在来種だけが子孫を残せなくなってしまいます。現在は法律上の指定はありませんが、極めて深刻な外来種で、なんとか被害の拡大を食い止めたい種類です。



jiroiguchi

中国
原産



知っておきたい「外来生物法」のルール

特定外来生物は、生きたまま持ち運んだり、飼ったり、他の場所に放したりすることが法律で禁止されています。

違反すると厳しい罰金が科せられることもあります。

アメリカザリガニとアカミミガメは、2023年から「条件付特定外来生物」になりました。飼っている個体を最後まで飼うことはOKですが、池や川に放すことは絶対にダメです。

みんなの報告が、街の安全と生態系を守る武器になる！

気候変動により、南方の昆虫などが北上し、生態系が変化しています。

多摩市生きもの調査隊では、これらの気候変動の指標種も観察しており、

台湾ウチワヤンマとクロマダラソテツジミは多摩市で初めて記録されました。

これらの北上してきた生きものと、在来の生きものとの競争が激しくなり、エサや生息地のバランスが崩れる可能性があります。

さらに、ヨツモンカメノコハムシのように植物への被害が増え、農作物にも被害が及ぶことが懸念されています。

1990~
北上

クマゼミ



多摩市ではしばしば観察されるセミです。
南方の種ですが、植木の根に幼虫がついてきて持ち込まれたという説があります。
温暖化により卵から孵化する時期が早まって生存率が高くなっていることが、都市部で増加している理由と考えられています。

ツマグロヒョウモン



多摩市でもっとも普通にみられるチョウの一種です。
以前は東京では伊豆諸島だけに生息していましたが、1990年代後半に本土部でも増え始め、今では東京都全域でもっとも普通にみられるようになっています。

参考文献:西多摩昆虫同好会編(2012) 新版東京都の蝶

ヨコヅナサシガメ



中国などを原産とする外来種です。
九州で1930年代に記録され、関東には1990年代に見られるようになりました。多摩市では市内全域で記録されています。
人を刺すことがあるため、触れないよう注意が必要です。

2020~
北上

ヨツモンカメノコハムシ



多摩市では2021年から記録があります。
サツマイモやアサガオ類などの葉の上に普通に見られます。
本来、沖縄以南に生息するハムシで、2000年に九州で、2008年に静岡で、東京都では2018年に町田市で初めて確認されました。
サツマイモなどを食害する害虫です。

多摩市
初記録

クロマダラソテツジミ



2024年11月に多摩市で初めて確認されました。
ソテツの新芽を求めて放浪の旅をする熱帯アジアのシジミチョウで、2000年代後半には北上して九州や関西で発生が確認され、2009年に東京都に到達。都区部での確認が多く多摩では少ないようです。
参考文献:西多摩昆虫同好会編(2012) 新版東京都の蝶

多摩市
初記録

台湾ウチワヤンマ



2024年7月に多摩市で初めて確認されました。南方系の種で、温暖化が一因で北上しています。
東京では2012年に立川市で最初に発見されました。その後、昭島市、三鷹市、大田区などで確認されています。今のところ昭和記念公園が北限とされています。
参考文献:喜多編著・須田監修(2021) 東京都のトンボ

2000~
北上

クロコノマチョウ



多摩市では、林内でしばしば出会う大きなチョウです。
本来熱帯から西南日本にかけての森林に生息し、1990年代はじめには関東ではほとんど見られないチョウでしたが、2000年頃には多摩地方で普通に見られるようになりました。

参考文献:森林総合研究所所報 No.45・2004-12

ナガサキアゲハ



多摩市ではまれに観察されるチョウ。南方系のチョウで、1999年に伊豆大島で、翌年に都内本土部で記録されてから急速に増えています。
本来の分布域である四国・中国地方から20年かかって関東地方に到達し、温暖化の影響と考えられています。

参考文献:西多摩昆虫同好会編(2012) 新版東京都の蝶

ホソミイトンボ



多摩市ではしばしば出会うトンボです。
水辺から離れた林内でも観察されます。
2003年頃から東京周辺でもよく確認されるようになりました。
ここ20年ぐらいで分布の拡大や北上がみられます。

参考文献:喜多編著・須田監修(2021) 東京都のトンボ

多摩市は、多摩市議会と共同で気候非常事態宣言を行っています。
気候変動は生態系にも大きな影響を及ぼしますが、生物多様性が豊かな自然は、その影響を和らげ、本来の自然へと回復する調節機能を持っています。
多摩市では、二酸化炭素の排出削減とあわせて、基盤となる水とみどりの保全を積極的に推進します。

💡 知ることから始めよう

調査隊活動で、自然の変化を肌で感じることも第一歩です。

🌿 自然を「プラス」に

木を植えたり、水辺を創出したり、森の手入れをしたりする「ネイチャーポジティブ」な活動は、地球を冷やす効果もあります。

💚 暮らしを変える

無駄な電気を使わない、ゴミを減らすといった身近な工夫も、多摩市の生きものたちの住みやすい環境を守ることに繋がります。

多摩市生きもの調査隊から → ネイチャーポジティブへ

「減る」を止めて、「増やす」！ ネイチャーポジティブ

ネイチャーポジティブとは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せる(反転させる)国際的な目標です。自然をこれ以上失わないというだけでなく、回復させ、豊かにしていく社会を目指す考え方が世界で広がっています。多摩市生きもの調査隊の記録は、地域の自然の状態を“見える化”し課題を明らかにします。自然を守り、再生する行動へとつなげることで、ネイチャーポジティブを自分たちの手で実現していきましょう。



生きものと共生する豊かな生活

ネイチャーポジティブが実現し、多様な生きものが身近に暮らす環境は、人にとって豊かな生活の基盤となります。自然は水や空気を整え、気候をやわらげ、季節の移ろいや生きものとの出会いが、暮らしに彩りを与えてくれます。

自然共生サイトで、自然を回復

生きものの保全が図られている区域を国が認定するのが「自然共生サイト」です。市内のサイトを増やし、市や市民、企業などが連携し、生きものが暮らせる環境を着実に回復していきます。



記録することが未来をつくる

多摩市生きもの調査隊によって観察された身近な生きものたちのデータは、どこに、どんな自然が残されているのかを示す確かな記録となります。

自然の姿が、浮かび上がる

集まった記録から、どこにどんな生きものが多いのか、また、季節や年による違いなどが見えてきます。これらの情報はインターネットで公開され、誰でも自由に見ることができます。

「知る」から「活かす」へ

見えてきた情報は、守るべき場所や必要な対策の根拠になります。外来種を減らす、樹林を管理する、草地を適切に刈る、水辺を創出するなど、その場所に応じた具体的な管理へとつながっていきます。

現在

2030

近い未来

スマホひとつで、まちの自然探し。
記録することで、守れる自然がある。

多摩市生きもの調査隊に参加しませんか？

調査は簡単！

生きものを見つけたら…

スマホで
撮って

アプリに
記録



スマートフォンで身近な生きものを記録し、
多摩市の自然を「見える化」する取組です。
特別な知識や道具は必要ありません。
日常の中で見つけた生きものが、
まちの自然を知る手がかりになります。

詳しくはこちら >>>

多摩市「生きもの調査隊」募集
ページへ



 iNaturalist

生きもの調査隊は自然観察・記録アプリ
「iNaturalist (アイナチュラリスト)」を
活用しています。

iPhone



アンドロイド



この冊子に掲載された写真はすべて
生きもの調査隊員が撮影したものです！



多摩市生きもの調査レポート 2020-2025

発行日：2026年3月

発行：多摩市

編集・企画：多摩市生きもの調査隊 事務局

特定非営利活動法人 東京生物多様性センター